

第5集

分布図研究会研究紀要

〈平成19年度～平成21年度〉

目 次

目 次	1
はじめに	2
第V期（平成19～21年度）「分布図研究会」研究構想	3
つきたい地図活用能力発達段階表(小～高・新学習指導要領対応)	5
描画(地図づくり)能力段階表(小～高・新学習指導要領対応)	7
〈小学校授業研究〉	
第4学年 社会科 授業研究報告	10
第5学年 社会科 授業研究報告	17
第6学年 社会科 授業研究報告	23
〈中学校授業研究〉	
第1学年 社会科 授業研究報告	29
第2学年 社会科 授業研究報告	35
第3学年 社会科 授業研究報告	41
〈高等学校授業研究〉	
第3学年 日本史B 授業研究報告	47
第3学年 地理B 授業研究報告	53
第3学年 日本史A 授業研究報告	59
参考資料	65
おわりに	77
研究同人(3年間)	78

はじめに

平成7年7月7日、岐阜県図書館が岐阜市宇佐に新しく移転すると同時に、世界分布図センターが岐阜県図書館内に併設されました。そしてこれを機に、平成2年度から取り組まれてきた「分布図研究会」の研究内容を改め、学校教育現場における当センターが所蔵する地形図等資料の具体的な活用方法について、3年単位で研究を行うことになりました。これに伴い、研究委員として小・中・高等学校の教員を新たに委嘱しました。

当初は、様々な課題がみられました。各教科の専門的な実践例は、多くの教員が日々の教育活動の中で参考にするにはかなり高度に感じられたり、地図に関わる専門的な実践を行う時間も限られていたりするといった現状があったからです。

そこで平成16年度から、日常の教育活動の中で、地形図等を容易に活用できるような実践や、学習における地図づくりの有効性を紹介するように努めてきました。

平成19年度からは、教科を小・中・高等学校の社会科・地理歴史公民科にしぼり、研究テーマを『主体的に地図にかかわり、地理的認識を深める児童生徒の育成』とし、研究内容を「①主体的に地図資料にかかわるための学習活動の在り方」「②地図活用能力・描図能力を伸ばす個に応じた指導・評価の在り方」と設定し、重点をかけて授業実践を行いました。

さらに本年度は、上記研究実践の継続と、新学習指導要領の改訂をうけ、それに対応する『地図活用能力及び描図能力段階表』の修正も図りました。

研究委員の方々には、多忙な教育活動の中でも、精一杯取り組んでいただけた3年間であったと推察します。

分布図研究会では、これまでに年1回の『報告書』（計10冊）、3年間のまとめとしての『研究紀要』（計4冊）を刊行してまいりました。また、研究委員の方々や特別顧問の先生方のご尽力により、岐阜県図書館の地図資料や機能を生かした授業実践も、年々充実し、成果をあげてまいりました。

今回、HPに掲載する研究紀要では、岐阜県内の小中高等学校の先生方が、教育現場ですぐに活用できるような内容です。研究委員会の先生方の貴重な成果を読み取っていただき、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

なお、本研究の推進にあたり、特別顧問の金窪敏知先生、小林浩二先生、海津正倫先生には、的確な御指導・御助言をいただきました。心からお礼申し上げます。

最後になりましたが、本研究会のために、ご理解とご協力をいただきました学校関係者の皆様に、厚くお礼申し上げます。

平成22年3月吉日

岐阜県図書館

分布図研究会 会長

田宮 仁史

第Ⅴ期(平成 19～21 年度)

「分布図研究会」研究構想

1 「分布図研究会」の目的と主な研究内容

(1) 目的

岐阜県図書館の地図資料や機能を利用した学校現場での具体的な地図の活用方法を研究し、学校教育における利活用を支援・推進する。

(2) 主な研究内容

- ① 児童生徒の地図活用能力の向上をめざす授業づくりの研究
- ② 児童生徒が地図を作成するための指導法の研究
- ③ 新学習指導要領を受けた段階表の修正

2 研究の歩み

平成7年度から19年度まで、3年間で1期間とする4期、13年間の取り組みで、岐阜県図書館が所蔵する分布図や地図、「情報工房」の機能を活かして作成した分布図等の教材・資料を学校教育の現場で活用する方法を研究実践し、その成果を年1回の『報告書』(9冊)、3年間のまとめとしての『研究紀要』(4冊)として刊行してきた。

研究の概要は下記の通りである。

< 第Ⅰ期(平成7～9年度)・第Ⅱ期(平成10～12年度)・第Ⅲ期(平成13～15年度)>

児童生徒の地図活用能力の向上をめざし、作成・選定した地図資料を活用した授業を研究し、実践した。

< 第Ⅳ期(平成16～18年度)>

第Ⅰ期～第Ⅲ期の成果をふまえ、学校教育現場ですぐに活用できる実践事例の開発をめざし、「発達段階ごとの描図能力や地図活用能力の内容」を検討し、これらを学習指導要領に基づいた実践計画に位置づける研究を行い実践した。

3 第Ⅴ期(平成19～21年度)の研究構想と研究内容

(1) 研究構想

児童生徒の地図活用能力の向上を図るため、学校教育現場ですぐに役立つ実践事例のいっそうの開発をめざし、指導・評価が一体化した実践事例の開発を進める。そのため、テーマを焦点化して研究する。

具体的には、第Ⅳ期の成果である「発達段階ごとの地図活用能力や描図能力の内容」をもとに児童生徒の地図活用能力・描図能力が定着する指導過程に絞った指導・評価の方法を工夫し、その成果を、実践を通して検証していく。

(2) 研究テーマ

「主体的に地図にかかわり、地理的認識を深める児童生徒の育成」

(3) 研究仮説

小中高等学校の単元指導計画内に、児童生徒が主体的に地図に込められた社会的事象を読み取ったり、地図に描いたりする場を意図的に設定し、その学年の発達段階や個に応じた地図活用能力や描図能力を伸ばす指導・評価を蓄積していけば、地理的認識を深める児童生徒が育つ。

(4) 研究内容

- ① 主体的に地図資料にかかわるための学習活動の在り方
- ② 地図活用能力・描図能力を伸ばす個に応じた指導・評価の在り方

4 第Ⅴ期の研究・活動計画

(1) 研究期間と開催回数

- ・ 3年間の継続研究（1、2年次は「研究報告書」3年次は「研究紀要」を刊行）
- ・ 年4～5回の活動
- ・ 第1回及び第4または5回は、特別顧問に出席を依頼し、指導・助言を得る。

(2) 3年間の研究の方向

- 第1年次：『平成19年度の活動』…研究内容①に関する実践報告
- 第2年次：『平成20年度の活動』…研究内容②に関する実践報告
- 第3年次：『平成21年度の活動』…研究内容①、②に関する授業実践とまとめ及び段階表の修正

(3) その他の活動

- ・ 教育行政諸機関等を中心に岐阜県図書館で所蔵する資料の情報提供
- ・ 児童生徒地図作品展一次審査等、岐阜県図書館の事業への参加協力等

5 研究の進め方

- ・ 小中高等学校教諭がそれぞれのグループとなり、小中高等学校における地理教育及び指導・評価の現状について交流を進める。
- ・ 大学生の地理的認識の現状をふまえ、地理教育の指導等を特別顧問より受ける。
- ・ 小中高等学校の連携を図りながら、段階をふまえた研究内容の具体的方途を決定する。
- ・ 実践を進めながら、地図活用能力及び描図能力段階表の見直しを行う。
- ・ 実践報告を教師の指導や児童生徒の具体的な姿等でまとめる。

6 分布図研究会 研究委員等の構成

- ・ 小学校社会教諭 3名
- ・ 中学校社会教諭 3名
- ・ 高等学校地理歴史科・公民科教諭 3名
- ・ 特別顧問 3名
- ・ 会長（館長） 1名
- ・ 副会長（副館長） 1名
- ・ 事務局 2名

つきたい地図活用能力発達段階表（新学習指導要領対応）

学校・学年	対象地域	目標：つきたい地図活用能力（主に観察力や資料活用力、表現力）	活用教材
小学校1・2年生	身の周り 身近な地域	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身の周りや、身近な地域について、様々な建物などのおおまかな位置や距離を理解することができる。 ・学校や自分の家などを位置づけた絵地図などを描くことができる。 	身の周りや身近な地域の 白地図 簡単な絵地図
小学校3・4年生	身近な地域	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが住んでいる身近な地域や市（区・町・村）の地形、土地利用、公共施設、古くから残る建造物などについて調べ、地域の様子は、場所によって違いがあることを理解することができる。 ・住んでいる市（区・町・村）の位置をとらえることができる。 	鳥瞰図 立体地図 空中写真 地形図 方位（四方位・八方位） 地図記号 身近な地域及び市区町村の白地図
	市（区・町・村）	<ul style="list-style-type: none"> ・県（都・道・府）における自分たちの市（区・町・村）の位置を理解することができる。 ・地図記号を活用して、身近な地域や市の略地図を描くことができる。 	
	県（都・道・府）	<ul style="list-style-type: none"> ・県（都・道・府）全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子、主な都市の位置などについて調べ、その特色を理解することができる。 ・日本における県（都・道・府）の地理的位置や47都道府県の名称と位置を理解することができる。 ・学習内容に応じて、県のおおまかな略地図を描くことができる。 	地図帳 都道府県及び市区町村の白地図
小学校5年生	日 本	<ul style="list-style-type: none"> ・主な大陸と海洋や主な国の名称と位置、日本の位置と領土を理解することができる。 ・日本の農業や水産業、工業生産の分布やその特色、国土の地形や気候の様子について調べ、それに関わる社会的な事象について理解することができる。 ・学習内容に応じて、日本や世界のおおまかな略地図を描くことができる。 	世界・日本の白地図 地図帳 地球儀 統計資料
小学校6年生	日 本	<ul style="list-style-type: none"> ・経済や文化などの面でつながりが深い国の名称と位置、日本から見た方位などを調べ、理解することができる。 ・学習内容に応じて、日本や世界のおおまかな略地図を描くことができる。 	地図帳 世界地図 地球儀 年表

中 学 校	世 界	<ul style="list-style-type: none"> 世界の地域的特色を、人々の生活や産業・歴史などと結びつけて理解することができる。 世界の略地図を描くことができる。 	世界の白地図 地図帳 世界地図 地球儀 統計資料
	日 本	<ul style="list-style-type: none"> 日本の地域的特色を、人々の生活や産業・歴史などと結びつけて理解することができる。 日本の略地図を描くことができる。 	日本の白地図 地図帳 統計資料 年表
	地 域	<ul style="list-style-type: none"> 地域の諸事情や情報の適否を判断し、適切な地図（主題図や分布図など）を描くことができる。 	地形図
高 等 学 校	地 域	<ul style="list-style-type: none"> 地形図や空中写真などの読み取りができる。 地域間の違いや歴史的な変容などを理解することができる。 様々な地理情報を適切に収集・選択・処理することにより、それらを明確に記した地図を描くことができる。 	地形図 空中写真 地図帳
	日 本	<ul style="list-style-type: none"> 世界の中での日本の役割を、産業・文化・国際貢献などの面から多角的・多面的に理解することができる。 様々な地理情報を適切に収集・選択・処理することにより、それらを明確に記した地図を描くことができる。 	日本地図 世界地図 地図帳 統計資料
	世 界	<ul style="list-style-type: none"> 世界各地の地球的課題に関する諸事象を各種の地図をもとに理解することができる。 世界地図の全体や部分を描くことができる。 様々な地理情報を適切に収集・選択・処理することにより、それらを明確に記した地図を描くことができる。 	世界地図 世界の白地図 地図帳 地球儀 統計資料

「描図（地図づくり）能力段階表」（小1～中3、高校） 新学習指導要領対応

発達段階	つきたい描図能力 (主に表現力)	描図可能な単元名	準備するもの	描図手順	留意事項			
小1	身近な地域を対象として	①身の回りの地域や校内では、どこに何があるのか簡単な絵を描いたり、模型を作ったりできる。	※生活科 ・ともだちいっぱい つくるんだ	・校内配置図をわかりやすくした地図(拡大する) ・見つけたことをまとめるカード	1 学校探検を行う。 2 探検で見つけたことをカードにまとめ、仲間に広める。 3 カードにまとめた場所がどこにあるか校内配置図で確認する。	・場所を詳細に表現することよりも、子どもの気づきを大切に全体に広めながら、描いたり作ったりできるように努める。		
小2		①学校や近所のおおまかな模型地図(床地図)を作ることができる。	※生活科 ・ときどきわくわく まちたんけん	・身近な地域の白地図 ・見つけたことをまとめるカード	1 身近な地域の探検を行う。 2 探検で見つけたことをカードにまとめ、仲間に広める。 3 カードにまとめた場所がどこになるか確認をする。 4 カードを地図に貼り、全体の位置を確認する。	・場所を詳細に表現することよりも、子どもの気づきを大切に全体に広めながら、描いたり作ったりできるように努める。		
小3	身近な地域を対象として(市区町村)	①学校を中心とした絵地図を描くことができる	・わたしたちのまち みんなのまち	・学校のまわりの略地図(学校を中心とする)	1 地域の探検を通して、分かったことを絵地図に表す。 2 作った絵地図をもとにして、誰にでも分かりやすい地図にするためにはどうしたらよいかを話し合う。 3 みんなで確認した約束(地図記号や方角など)を用いて絵地図にまとめる。	・東西南北を表す記号を書き入れたり、距離がわかるように目盛りのついたものさしを書き入れることを押さえる。(縮尺) ・一般の地図では、凡例に示して地図記号が使われていることを押さえる。		
②市(区、町、村)の略地図を描くことができる。		・市のようす (ガイドマップをつくろう)			・市町村の地図 ・薄い紙(トレーシングペーパー) ・色鉛筆など		1 市の形(境界線)を描く。 ・市の地図の上にうすい紙を重ねてほしいの形をなぞる。 2 市の詳しい地図を見ながら、高い土地低い土地に色をぬる。 3 おもな川を描く。 4 鉄道や道路は、主なものを簡単に描く。 5 調べて分かったことを書き入れる。 6 地図から分かる市の特色について話し合う。	・市の形(境界線)を描くときに、慣れていけば、地図を見ながら描くことができるように配慮する。 ・分かったことには、どんな様子なのかを書き入れたり使った写真や資料をはったりして分かりやすく表現できることを指導する。 ・地形的な特色や土地利用の様子についても指導する。
③絵地図以外の平面地図の描き方が分かる。			①県(都、道、府)の略地図を描くことができる。	・わたしたちの県		・県の地図 ・薄い紙(トレーシングペーパー) ・色鉛筆	1 県の形(境界線)を描く。 ・県の地図の上に薄い紙を重ねて形をなぞる。 2 自分が住む市(区・町・村)を描き入れ、県全体や隣接市町村との位置関係について、方位や距離を用いて言い表す。 3 県の地形や交通網の様子、主な産業の分布など、学習内容にそって白地図にまとめる。	
小4	身近な地域を対象として(都道府県)	・わたしたちの国土と環境			・世界地図 ・薄い紙(トレーシングペーパー) ・色鉛筆 ・地図帳 ・地球儀		1 日本地図の上に薄い紙を重ねて形をなぞる。 2 描いた日本地図に都道府県名を書き入れる。 3 自分が住む県(都・道・府)を描き入れ、日本全体や隣接市町村との位置関係について、方位や距離を用いて言い表す。	・47都道府県の位置と名称については、地図をもとに繰り返し押さえる。
②市(区、町、村)の略地図を描くことができる。			・わたしたちの生活と食料生産	・日本地図(白地図) ・都道府県別稲の収穫量 ・色鉛筆 ・統計(地図帳)		1 資料をもとに米作りの盛んな地域を調べて白地図に表す。 2 作成した分布図と地図帳を比較して、地形の様子や米作りの特色について考える。	・他の食料生産の分布や世界との結びつきも調べることができるように、各種白地図を準備しておく。	
③絵地図以外の平面地図の描き方が分かる。	・わたしたちの生活と工業	・日本地図(白地図) ・都道府県別製造品全出荷額など(地図帳) ・色鉛筆			1 工業製品出荷額が10兆円以上の都道府県に色を塗る。 2 工業製品出荷額が5兆円以上10兆円未満の都道府県に色を塗る。 3 分布図から、工業生産の盛んな場所を見つけ、日本の工業生産の特色について考える。	・運輸の働きや世界との結びつきも調べることができるように、各種白地図を用意しておく。		
小5			身近な地域を対象として(都道府県)	・わたしたちの国土と環境	・世界地図 ・薄い紙(トレーシングペーパー) ・色鉛筆 ・地図帳 ・地球儀		1 日本と経済や文化などの面につながりが深い国について調べ、テーマにそった地図を作成する。 2 作成した分布図を活用して、レポートにまとめる。	・調べたい国についてまとめる一つの手段として、地図(分布図)などが分かりやすいことを押さえる。
②市(区、町、村)の略地図を描くことができる。	・世界の地域構成	・世界地図 ・トレーシングペーパー ・太マジック				1 太いマジックで世界地図の簡略線をなぞる。 2 作業を通してできた略地図をながめ、次は、太いマジックで世界地図の海岸線等をなぞる。	・赤道(緯度0°)と本初子午線(経度0°)を必ず入れる。 ・描く順序は、①ユーラシア②北アメリカ③南アメリカ④オーストラリア⑤アフリカで描くとよい。	
③絵地図以外の平面地図の描き方が分かる。						・日本の地域構成		
小6	①各種の略地図を描くことができる。 ②略地図を必要に応じて描くことができる。	・世界の地域構成	・世界地図(白地図) ・色鉛筆	1 日本と経済や文化などの面につながりが深い国について調べ、テーマにそった地図を作成する。 2 作成した分布図を活用して、レポートにまとめる。	・調べたい国についてまとめる一つの手段として、地図(分布図)などが分かりやすいことを押さえる。			
中1	統計資料を活用しての	①世界の略地図を描くことができる。	・世界の地域構成	・世界地図 ・トレーシングペーパー ・太マジック	1 太いマジックで世界地図の簡略線をなぞる。 2 作業を通してできた略地図をながめ、次は、太いマジックで世界地図の海岸線等をなぞる。	・赤道(緯度0°)と本初子午線(経度0°)を必ず入れる。 ・描く順序は、①ユーラシア②北アメリカ③南アメリカ④オーストラリア⑤アフリカで描くとよい。		
②日本の略地図を描くことができる。		・日本の地域構成	・日本地図 ・トレーシングペーパー	1 太いマジックで日本地図の海岸線等をなぞる。 2 作業を通してできた略地図をながめ、さらにどのように略すか、どこから描	・東経135°の経線と北緯35°の緯線を必ず入れ、その交差点に兵庫県西脇市が位置するように描く。			

	地図づくりを基盤として		・太マジック	き始めるかなどを工夫しながら、自分なりの略地図の描き方を工夫する。	・描く順序は、①本州②四国③九州④北海道⑤沖縄で描くとよい。 ・半島や海峡が離れすぎたり近づきすぎたりしないように注意する。	
中2	(日本・世界)	①見る人に分かりやすく地域のイメージを伝える地図(イラストマップ)を描くことができる。 ②主題図をおおまかに描くことができる。 ③各種の分布図をおおまかに描くことができる。	・世界の諸地域 ア アジア イ ヨーロッパ ウ アフリカ エ 北アメリカ オ 南アメリカ カ オセアニア	・各地域の地図 ・調べてきた資料 ・世界の白地図 ・色鉛筆	1 各地域の大まかな略地図を描く。 2 主な自然や地名を記入する。 3 テーマに合わせた主題をつける。 4 絵や記号を使って、分布図を描く。	・イラストマップの特性が理解できるように、写真なども参考にしながら描かせ、描きたい事柄の分布を確認しながら、作業を進めさせる。 ・自然環境(山脈、山地、河川、湖沼、砂漠など)を描く場合、地図帳の鳥瞰図、高さを表す地図や写真を参考させる。 ・記号を使う場合、わかりやすさと大きさに気をつけさせる。凡例を必ず入れさせる。
			・日本の諸地域 ア 自然環境を中核とした考察 イ 歴史的背景を中核とした考察 ウ 産業を中核とした考察 エ 環境問題や環境保全を中核とした考察 オ 人口や都市・村落を中核とした考察 カ 生活・文化を中核とした考察 キ 他地域との結びつきを中核とした考察	・各地域の地図 ・調べてきた資料 ・日本の白地図 ・色鉛筆		
			・世界と比べた日本の地域的特色 ア 自然環境 イ 人口 ウ 資源・エネルギーと産業 エ 地域間の結びつき	・各種資料 ・白地図 ・色鉛筆	1 各都市・地域の雨温図をもとに、白地図に日本の略地図を描き、気候区分を表す。 2 日本の人口分布図の上に人口の密集する市街地に着色し、百万人以上の都市を示す。 3 日本の発電所の分布を凡例をもとに記入し、特徴をつかむ。 4 結びつきに関わるテーマを設定し、略地図に表す。	・凡例を作る際、色使い(暖色は数値の大きい、寒色は数値の小さい)や単位に気をつける。 ・書き込むときに、表すものが重ならないよう、バランスに気をつける。
			・身近な地域	・各種資料 ・白地図 ・色鉛筆	1 調査したい地域の大きさに合わせた縮尺に応じて、おおまかな略地図を描く。 2 地形と土地利用について地図記号を使って表す。 3 自分が調査したことについて着色して略地図に表す。	・調査した内容を表すために必要な地図を選択する。 ・等高線の高さに気をつけて記入する。
中3	統計資料を活用しての地図づくりを基盤として(日本・世界・歴史)	①各種の地図を描くことができる。	・地方の政治と自治	・都道府県や市町村の地図 ・調べてきた資料 ・色鉛筆	1 地域づくりに関わる各種資料をもとに、分布図などをつくる。	
高校		①学習活動を通して、地図情報を読み取ることができる。	・地形図の利用	・地形図 ・色鉛筆 ・定規	1 土地利用を着色する。 2 断面図を描く。 3 集落などについて考察する。	
		①身近な地域の調査を行う際の予備調査として、地域の変容を読み取ることができる。	・地域調査	・新旧地形図 ・色鉛筆 ・空中写真	1 水田や畑、宅地などを着色する。 2 新旧地形図を比べて、道路や集落の様子など、地域の変容を読み取る。	・岐阜県図書館所蔵物などを利用した新旧の地形図を使用する。
		①学習活動を通して、歴史や地域的特色を理解することができる。	・現代世界の国家	・統計要覧 ・地図帳 ・色鉛筆	1 統計要覧をもとに、第二次世界大戦以前の独立国・～1959年までに独立した国、～1979年までに独立した国、1980年以降に独立した国に区分して着色する。 2 それぞれの地域的特色と、その背景について考える。	・区分が多すぎると見えづらい地図となるため、4～6区分となるように指導する。
		①現代世界の経済圏について、地図を描くことを通して、国家間の結びつきを地理的に理解することができる。	・現代世界の貿易と経済圏	・地図帳 ・白地図	1 欧州連合(EU)、アジア太平洋経済協力会議(APEC)、独立国家共同体(CIS)、北米自由貿易協定(NAFTA)、南米南部共同市場(MERCOSUR)、東南アジア諸国連合(ASEAN)、石油輸出国機構(OPEC)、アフリカ連合(AU)などを白地図に着色する。	・重複している国があることを指導しておく。
		①統計資料をもとに地図を描くことを通して、	・地図でとらえる現	・統計要覧	1 統計要覧をもとに、各国の1人あたりのGNIの値を調べる。	・どこで階級を区分するのは各自に任せる。

	地域間の違いや傾向を理解することができる。	代社会	<ul style="list-style-type: none"> 色鉛筆 白地図 	<ol style="list-style-type: none"> 2 最大値と最小値に着目して、4～6の階級に区分する。 3 階級ごとに色を決めて着色する。 4 結果をもとに話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 色の分け方で印象が違うことを押さえる。
	<ol style="list-style-type: none"> ① 様々な主題図があることを理解し、目的に応じた主題図を作成することができる。 ② 階級区分の効果などについて理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主題図の見方とつくり方 	<ul style="list-style-type: none"> 統計要覧 色鉛筆 白地図 	<ol style="list-style-type: none"> 1 統計要覧をもとに、都道府県別人口密度の値を調べる。 2 最大値と最小値に着目して、4～6の階級に区分する。 3 階級ごとに色を決めて着色する。 4 結果をもとに話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 階級の区分によって、全く違う印象になることも押さえる。
	① 目的に応じた地図を描くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 様々な図法 	<ul style="list-style-type: none"> メルカトル図法白地図 正距方位図法白地図 グード図法白地図 地球儀 地図帳 	<ol style="list-style-type: none"> 1 それぞれの図法の白地図をもとにして、東京から各都市に直線を引く。 2 地球儀と照らし合わせながら、角度が正しい、距離が正しい、方位が正しい、面積が正しい図法があることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球の球体を平面で表すことの難しさを押さえる。 地図帳などにも多くの図法が使用されていることを押さえる。
	① 目的に応じて、分かりやすい各種地図を描くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 地域区分図の作り方 	<ul style="list-style-type: none"> インド地図 	<ol style="list-style-type: none"> 1 インドの主な農作物の分布（ドットマップ）から、作物別の地域区分図などを作成する。 2 年降水量や土壌などが農作物にどのような影響を与えているかを調べ、記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 重複する箇所の表し方についても指導する。

※参照

- ・「地図でつける基本学力」すぐに使えるオモシロ活動FAX集（北俊夫著 明治図書）
- ・「地名と地図の地理教育」—その指導の歩みと課題—（田中耕三著 古今書院）